

最近の WIPO の動き (24)

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所*

1. はじめに

本稿では、WIPO の最近の動きとして、以下の4つを紹介する。

- ・ WIPO GII 2022 の「科学技術クラスターランキング」章の概要
- ・ 第6回の知的財産と先端技術に関する WIPO 対話が開催
- ・ WIPO ヤング・エキスパート・プログラム (YEP)
- ・ WIPO アクセシブル・ブックス・コンソーシアム (ABC) インターナショナルエクセレンスアワード 2022

2. WIPO GII 2022 の「科学技術クラスターランキング」章の概要

WIPO は、9月29日に「Global Innovation Index (GII)」の2022年版 (GII 2022) を正式発表した¹⁾。本稿では、この正式発表より2週間ほど先立って公表された²⁾、GII 2022 に収録されている「科学技術クラスター」章について、その結果概要を紹介する³⁾。

この科学技術クラスター (science and technology (S&T) clusters) とは、PCT 出願の発明者 (最近5年の公開分)、同期間の Web of Science の Science Citation Index Expanded (SCIE) の科学論文に記載されている著者の居所より分析を行い、一定の半径内に一定以上の密度のあったものを“クラスター”と判断し、特定されたクラスター内の特許・論文数をカウントすることで順位付けしたものである。

本年の科学技術クラスターランキングでは、東京ー横浜地域が2017年版より引き続いて6年連続の世界第1位であった。他、日本からは、大阪ー神戸ー京都地域が世界第7位、名古屋地域が世界第12位と上位にランクインするとともに、金沢地域が世界第80位、浜松地域が世界第85位であり、多くの地域がランクインしていた。これは、世界各国と比べ、日本では比較的まとまった領域でイノベーション活動が行われていることを示唆するものと言える。

次に、世界の上位地域を見ると、1位の東京ー横浜地域に続き、2位が深圳ー香港ー広州地域、3位が北京地域、4位がソウル地域と、ここまで東アジアの都市が上位を独占しており、5位は、米国サンノゼーサンフランシスコ地域であった。(次頁の図参照)

また、トップ100のクラスターを国別で見ると、米国と中国がともに21地域がランクインしており最多であり、ドイツ (10地域)、日本 (5地域) がそれに続いていた。(次頁の表参照)

さらに、クラスターを人口比で見たランキングでは、1位がイギリスのケンブリッジ地域、2位がオランダ・ベルギーのアントワープ地域、3位が韓国の大田地域、4位が米国のサンノゼーサンフランシスコ地域、5位が英国のオック

* WIPO の外部事務所の1つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい：

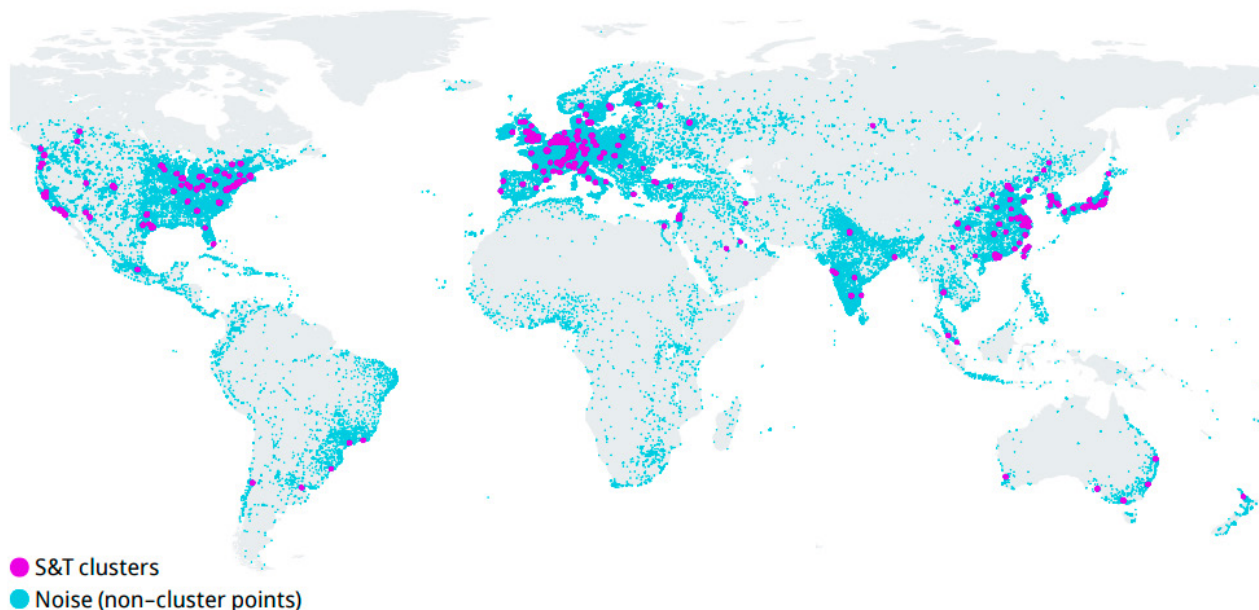
<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>
また、WIPO や WIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター (四季報) にて定期配信中：
https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan

スフォード地域が上位にランクしていた。

各地域の科学技術クラスターは、各国のイノベーション・エコシステムの活性化に不可欠なものであり、本調査結果が各地域の雇用、投資、成長につながり、イノベーション創出の一助と

なることが期待される。世界の 130 を超える経済圏のイノベーションランキングを分析した GII 2022 の本編と合わせ、この科学技術クラスターの方でも是非ご参照いただきたい。

Map 1 Top 100 clusters worldwide, 2022



Source: WIPO Statistics Database, April 2022.

Note: Noise refers to all inventor/author locations not classified in a cluster.

図. 本調査で特定された世界の科学技術クラスターの分布

Table 7 Economies with three or more top 100 S&T clusters, 2022

Economy	Economy name	Number of top 100 clusters
US	United States	21
CN	China	21
DE	Germany	10
JP	Japan	5
FR	France	4
CA	Canada	4
IN	India	4
KR	Republic of Korea	4
GB	United Kingdom	3
AU	Australia	3
CH	Switzerland	3
SE	Sweden	3

表. トップ 100 クラスターにランクインした地域数 (国別ランキング)

3. 第6回の知的財産と先端技術に関するWIPO対話が開催

WIPOは「知的財産と先端技術に関するWIPO対話」(WIPO Conversation on Intellectual Property and Frontier Technologies)を2019年から行っており、その最新セッションとなる第6回目の会合が2022年9月21-22日の2日間にわたり、現地とオンラインのハイブリッド形式で開催された⁴⁾。

この「知的財産と先端技術に関するWIPO対話」は、加盟国に対してAIをはじめとする先端技術の知財をめぐる各種トピックに関する対話と意見交換の機会を与えること、および、先端技術が知的財産システムに与え得る課題を形成することを目的としており、これまで、課題ペーパーの作成・公表を行うとともに、議論や情報共有の場を提供してきた。

今回の第6回会合では「AI発明(AI Inventions)」をテーマに設定し、AIに関する市場・技術・特許動向、イノベーターから見るAIの実態、AI関連発明の整理手法、AI発明者に関する知財制度の法的課題、知財専門家から見るAI、などをテーマとしたパネルが開催されるとともに、複数の知財庁より、AI分野のイノベーション支援策、課題へのアプローチについての情報提供などが行われるシェアリングセッションが行われた。このシェアリングセッションでは、日本特許庁より、AI関連発明に関し、その出願動向、審査結果の予見性向上に資する各種施策、国際調和に向けた取組、日本の特許法での発明者適格性の解釈、等について説明がなされた。また、本会合の最後のセッションでは、日本知的財産協会(JIPA)が登壇し、AIの発明者適格性に関するJIPAの見解も紹介された。

この第6回会合の様子は、すべてWIPO Webcast⁵⁾よりご視聴いただくことができるので、ご関心があればご覧いただきたい。

4. WIPO ヤング・エキスパート・プログラム(YEP)

WIPOは、「ヤング・エキスパート・プログラム」(YEP)という35歳以下の知財専門家に向けたプログラムの実施を公表した⁶⁾。YEPは、世界中でイノベーション・エコシステムの構築に貢献する次世代のグローバル知財リーダーを育成することを目的としている。プログラムの期間は2年間であり、本プログラムを通じて、若く才能ある人材が、知的財産の技術的側面を理解するだけでなく、それを実際に適用し、それぞれの国や地域に影響を与えることができるようになる機会を提供する。今回募集されたヤング・エキスパートは12名であり、採用された者は、2023年初頭よりWIPOジュネーブ本部での業務を開始する予定である。

YEPでは、イノベーションや創造性における知的財産やWIPOの役割を学ぶオンザジョブトレーニング、管理スキルを学ぶメンタリング、グローバルIPエコシステムの拡大に向けた知財リーダーとの国際ネットワークの構築、気候変動など地球規模課題に対処するプロジェクトへの関与、国際機関での業務経験を通じた外交スキルの習得など、多様な研修・業務経験を得ることができる。これまでに本プログラムに参加した者からは、「グローバルなレンズを通して知的財産を学び、見る機会を与えてくれた」、「WIPOでは若者の声が重要な役割を果たしており、組織運営に積極的に貢献することができた」、「国際経験や多国間主義の世界に触れる経験を持つことができた」、「WIPOや国連のような複雑な政府間組織がどのように機能しているかについて学ぶことができた」といった声が聞かれている。

WIPOでは、このYEPプログラムの他、インターンシッププログラム、WIPOアカデミー⁷⁾が提供する研修プログラムなど、世界各国の知財リーダー育成に向けた各種人材育成プログラムを提供しており、これらの取組が、グローバルな知財活動の活性化や、持続可能な未来に向けたイノベーションと創造性の促進につながることを期待

される。知的財産制度に携わる日本の若い方々にも是非参加をいただきたい。

5. WIPO アクセシブル・ブックス・コンソーシアム (ABC) インターナショナルエクセレンスアワード 2022

WIPO はアクセシブル・ブックス・コンソーシアム (ABC) インターナショナルエクセレンスアワードの推薦募集を開始した⁸⁾。

WIPO アクセシブル・ブックス・コンソーシアム (ABC)⁹⁾ とは、WIPO が主導する官民パートナーシップで、全盲の方々、視覚障害を持つ方々やその他の理由によって印刷物を読むことが困難な方々を代表する団体、著作者、出版社、集団管理団体、図書館、その他の認可団体、そして規格団体といった主要プレーヤーがすべて集まった組織である。ABC は、マラケシュ条約の目標を実現するために、2014 年 6 月に設立され、関連する国家および非国家主体による効果的な国際協力を通じて、点字、音声、電子テキスト、大活字などのアクセシブルな形式の書籍を世界中で増やし、流通させることを目指している。

今回のインターナショナルエクセレンスアワードは、このような印刷物を読むことが困難な方々のための電子書籍やデジタル出版物のアクセシビリティを推進する上で、優れたリーダーシップと実績を示した出版社とプロジェクト・イニシアティブをそれぞれ表彰するものであり、年間賞の受賞者は、11 月 29 日にメキシコのグアダラハラ国際ブックフェアで開催されるセレモニーで発表される予定である。なお、本アワードは、2015 年～2020 年にロンドン・ブックフェアで、2021 年にはフランクフルト・ブックフェアで発表されていたが、今回は初めてラテンアメリカで発表されることとなった。アクセシビリティの分野の専門家で構成される本アワードの選考委員会では、以下の基準に基づいて受賞者の選考が行われる。

- ・利用可能な形でコンテンツを利用できるようにするための組織全体にわたる取組。

- ・アクセシビリティの基準が生産システムに組み込まれ、出版日当日、または出版日の付近に書籍が利用可能になること。
- ・印刷物を読むことが困難な障害のあるエンドユーザーに製品を届ける際、アクセシビリティを確保するためのサプライチェーンにおけるパートナーとの協力。
- ・電子書籍やデジタル出版物のアクセシビリティを向上させるために確立された革新的な実践。
- ・全盲の方々、視覚障害を持つ方々や、その他の理由によって印刷物を読むことが困難な方々に、広く良い影響を与えていること。

WIPO ABC では、これ以外にも、視覚障害者のための図書館のために、視覚障害者等が利用しやすい形態の電子書籍のオンライン・カタログを提供する「ABC グローバル・ブック・サービス」、出版された時から視覚障害者にとってもそうでない方々にとっても直接使用可能な、書籍の製作の促進を目指している取組である「アクセシブル・パブリッシング」、途上国に対して、利用可能な形態の本の製作や配布に関するキャパシティビルディング活動、等を推進している。マラケシュ条約は、日本でも平成 31 年に発効している。SDGs の目標 4 (質の高い教育をみんなに)、目標 9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、目標 17 (パートナーシップで目標を達成しよう) にも資する WIPO ABC の取組が日本でも広まっていくことが期待される。

(注)

- 1) GII 2022 プレスリリース : https://www.wipo.int/pressroom/ja/articles/2022/article_0011.html
- 2) GII 2022 科学技術クラスター章のプレスリリース : https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2022/news_0034.html
- 3) GII 2022 本編の結果概要は、本稿次号でご紹介させていただく予定である。
- 4) 知的財産と先端技術に関する WIPO 対話に関するウェブサイト (英語) : https://www.wipo.int/about-ip/en/frontier_technologies/frontier_conversation.html
- 5) WIPO Webcast : <https://webcast.wipo.int/home>

- 6) WIPO ヤング・エキスパート・プログラム (YEP) ウェブページ (日本語) : https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2022/news_0036.html
なお、本応募は 10 月 6 日に締め切られている。
- 7) WIPO アカデミーは、WIPO の Regional and National Development Sector (地域・国家開発部門) に属する組織。WIPO 加盟国向けの知財教育・トレーニングの機会を提供している。
- 8) 関連する WIPO ウェブページ (英語) : https://www.accessiblebooksconsortium.org/news/en/2022/news_0005.html
なお、本応募は 10 月下旬に締め切られる予定である。
- 9) WIPO アクセシブル・ブックス・コンソーシアム (ABC) ウェブページ (英語) : <https://www.accessiblebooksconsortium.org/portal/en/>

(原稿受領日 2022 年 10 月 4 日)